

学位論文審査及び最終試験の結果等報告書

平成30年5月1日

報告番号 甲	第 号	氏 名	童 紅連
審 査 員		主 査	出原 賢治 
		副 査	副島 英伸 
		副 査	池田 義孝 
論文題名	題 名 Apaf1 plays a negative regulatory role in T cell responses by suppressing activation of antigen-stimulated T cells 雑誌名, 巻 (号のみの雑誌は号), 頁-頁, 発行西暦年 PLOS ONE, in press		
論文審査結果の 要旨	<p>本研究は、T細胞特異的 Apaf1 欠損マウスを作製してT細胞における Apaf1 の役割についての解析・検討を目的としている。</p> <p>T細胞特異的 Apaf1 欠損マウスでは、コントロールマウスに比べて抗原特異的な遅延型アレルギー反応の増強が認められた。T細胞特異的 Apaf1 欠損マウスでは抗原特異的なT細胞の増殖が亢進し、コントロールT細胞に比べてより多くの炎症性サイトカインを産生していた。抗原免疫したマウスから採取した Apaf1 欠損T細胞は、in vitro 下で抗原再刺激すると、より強い活性化を示した。抗原非免疫下 (ナイーブ) マウスから採取した Apaf1 欠損T細胞も同様に、コントロールT細胞に比べて増殖の増強とサイトカイン産生の増強を認めた。しかしながら、T細胞における Apaf1 欠損による作用は汎カスパーゼ阻害剤投与によっても阻害できなかったことから、T細胞反応における Apaf1 の作用はカスパーゼ非依存性、あるいは非アポトーシス性であると考えられた。</p> <p>以上の結果より、Apaf1 はT細胞反応においてネガティブな調節作用を持っていることを示し、免疫抑制剤を開発する上での標的となりうる可能性を示唆した。</p> <p>よって本論文は、博士 (医学) の学位論文として価値あるものと認めた。</p>		
最終試験の結果 の要旨	<p>最終試験において、各審査委員より専門的な観点から論文内容及びこれに関連した事項について種々質問を行ったが、いずれについても適切な回答を得た。</p> <p>よって、審査委員合議のうえ、大学院医学系研究科博士課程の最終試験に合格と決定した。</p>		
論文審査の結果	 合格	最終試験の結果	 合格
論文審査日	平成30年5月1日	最終試験日	平成30年5月1日
チェック <input checked="" type="checkbox"/>	論文審査において、研究指導計画書 (研究実施経過報告書) を活用した。		

平成 30 年 6 月 1 日

報告番号 甲	第 号	氏 名	吉 塚 久 記
審 査 員	主 査	馬 渡 正 明	
	副 査	園 畑 素 樹	
	副 査	上 村 哲 司	
論文題名	Anatomical variation in the form of inter- and intra-individual laterality of the calcaneofibular ligament Anat Sci Int (2018). https://doi.org/10.1007/s12565-018-0440-3		
論文審査結果の 要旨	<p>過去の報告において、足部外側靭帯群の形態的多様性が示唆されているが、その詳細はまだ明らかでない。本研究では特に踵腓靭帯 (CFL) に着目し、多数の解剖体を対象として、個体差や左右差の観点から解析を試みている。</p> <p>解剖実習体 55 体 (男性 33 体、女性 22 体) の両側 110 肢を対象とし、CFL を剖出後、距腿関節・距骨下関節 0° 肢位にて、靭帯長、最大幅、最小幅、ならびに CFL と腓骨長軸の成す角度 (CF 角) を計測し、CFL の欠損例を除く 108 肢につき統計学的に解析している。それによると、各パラメータはほぼ正規分布を示し有意な相関を示したが、CF 角のみが他のパラメータと有意な相関を示さなかった。108 肢の平均 CF 角は右側 $20.9 \pm 13.8^\circ$、左側 $27.6 \pm 15.7^\circ$ であり、左側が有意に大きいことが明らかとなった ($p < 0.05$)。また、個体レベルでみると、左右の CF 角の間に有意な相関は認められなかった。本研究により、CFL の形態的多様性に関する詳細な所見に加え、その走行角度に関する個体間・同一個体内の左右差が示された。</p> <p>以上の成績は、CFL の個体差が損傷メカニズムや関節の制御に及ぼす影響を機能解剖学的な視点から検討する必要性があるものの、CFL の解剖学的役割に関して、新しい知見を加えたものであり、意義あるものと考えられる。</p> <p>よって本論文は、博士 (医学) の学位論文として価値あるものと認めた。</p>		
最終試験の結果 の要旨	<p>最終試験において、各審査員より専門的な観点から論文内容及びこれに関連した事項について種々質問を行ったが、いずれについても適切な回答を得た。</p> <p>よって、審査員合議のうえ、大学院医学系研究科博士課程の最終試験に合格と決定した。</p>		
論文審査の結果	<input checked="" type="checkbox"/> 合格 <input type="checkbox"/> 不合格	最終試験の結果	<input checked="" type="checkbox"/> 合格 <input type="checkbox"/> 不合格
論文審査日	平成 30 年 6 月 1 日	最終試験日	平成 30 年 6 月 1 日
チェック <input type="checkbox"/>	論文審査において、研究指導計画書 (研究実施経過報告書) を活用した。		

平成 30年 6月 5日

報告番号 甲	第 号	氏 名	佐藤 博文
審 査 員	主 査	相 島 博 一	
	副 査	副 島 英 伸	
	副 査	平 田 修 二	
論文題名	題 名 Andrographolide induces degradation of mutant p53 via activation of Hsp70 雑誌名, 巻 (号のみの雑誌は号), 頁-頁, 発行西暦年 International Journal of Oncology, in press		
論文審査結果の 要旨	<p>p53 は重要ながん抑制遺伝子であり、DNA が損傷を受けた細胞をアポトーシスや Cell cycle arrest に誘導する。しかしながら約半数の癌細胞では p53 遺伝子は変異をきたしており、変異型 p53 は野生型 p53 が有するがん抑制機能を失うだけでなく、癌細胞を増殖させたり、治療的抵抗性を亢進させる。そのため変異型 p53 を標的とした化合物が注目されており、本研究では、変異型 p53 を抑制する化合物を検索し、その発現抑制メカニズムについて検証した。</p> <p>変異型 p53 を持つ HuCCT1 (胆管癌細胞株) と PANC1 (膵癌細胞株)、野生型 p53 を持つ HCT116 (大腸癌細胞株) と MKN45 (胃癌細胞株) に対して、複数の化合物を投与し p53 の発現および p53 関連蛋白発現を検討し、動物実験で抗腫瘍効果を検証した。その結果、Andrographolid (AGP) は変異型 p53 の発現を抑制し、野生型 p53 の発現を増強した。さらに変異型 p53 発現の抑制には Heat shock protein (HSP70) の結合が関与していた。動物実験でも AGP は変異型 p53 を有する癌細胞に抑制的な効果を示した。</p> <p>以上の成績は、AGP は Hsp70 を介して変異型 p53 の発現を抑制することが明らかにした意義あるものと考えられる。よって本論文は、博士 (医学) の学位論文として価値あるものと認めた。</p>		
最終試験の結果の 要旨	<p>最終試験において、各審査員より専門的な観点から論文内容及びこれに関連した事項について種々の質問を行ったが、いずれについても適切な回答を得た。</p> <p>よって、審査員合議のうえ、大学院医学系研究科博士課程の最終試験に合格と決定した。</p>		
論文審査の結果	<input checked="" type="checkbox"/> 合格 <input type="checkbox"/> 不合格	最終試験の結果	<input checked="" type="checkbox"/> 合格 <input type="checkbox"/> 不合格
論文審査日	平成 30年 6月 5日	最終試験日	平成 30年 6月 5日
チェック <input checked="" type="checkbox"/>	論文審査において、研究指導計画書 (研究実施経過報告書) を活用した。		

学位論文審査及び最終試験の結果等報告書

平成 30年 5月 11日

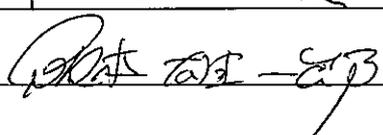
報告番号 甲	第 号	氏 名	高原 光平
審 査 員		主 査 吉田 裕樹	
		副 査 相島 慎一	
		副 査 藤田 亜美	
論文題名	<p>題 名 Effects of 4,9-anhydrotetrodotoxin on voltage-gated Na⁺ channels of mouse vas deferens myocytes and recombinant Nav1.6 channels 雑誌名, 巻(号のみの雑誌は号), 頁一頁, 発行西暦年 Naunyn-Schmiedeberg's Archives of Pharmacology, 391(5), 489-499, 2018 doi: 10.1007/s00210-018-1476-6</p>		
論文審査結果の 要旨	<p>本論文は、輸精管平滑筋細胞における電位依存性 Na チャネルβ-サブユニットの特性について述べており、分子生物学的実験を行い、使用されている可能性が高いサブユニットを明らかにしている。</p> <p>これによると、マウスの輸精管平滑筋細胞では <i>Scn1b</i> 遺伝子の発現型のサブユニットに比べて高く、免疫染色により <i>Scn1b</i> 蛋白が平滑筋に発現していることが確認された。パッチクランプ法により、電位依存性 Na 電流を測定したところ、平滑筋における電位依存性 Na 電流 (native I_{Na}) と HEK293 細胞上に発現したリコンビナント蛋白による Nav1.6 チャネルにおける電位依存性 Na 電流 (組換え型 I_{Na}) が類似していることが示された。特異的チャンネル阻害剤である 4, 9-アンヒドロテトロドトキシンによる阻害効果も、native I_{Na} と組換え型 I_{Na} とで同様の結果であった。</p> <p>以上の成績は、輸精管平滑筋細胞における電位依存性 Na チャネルを構成するβ-サブユニットの特性、およびそのチャンネルの特性について、新しい知見を加えたものであり、意義あるものと考えられる。</p> <p>よって本論文は、博士(医学)の学位論文として価値あるものと認めた。</p>		
最終試験の結果 の要旨	<p>最終試験において、各審査員より専門的な観点から論文内容及びこれに関連した事項について種々質問を行ったが、いずれについても適切な回答を得た。</p> <p>よって、審査員合議のうえ、大学院医学系研究科博士課程の最終試験に合格と決定した。</p>		
論文審査の結果	<input checked="" type="radio"/> 合格 <input type="radio"/> 不合格	最終試験の結果	<input checked="" type="radio"/> 合格 <input type="radio"/> 不合格
論文審査日	平成 30年 5月 11日	最終試験日	平成 30年 5月 11日
チェック <input checked="" type="checkbox"/>	論文審査において、研究指導計画書(研究実施経過報告書)を活用した。		

平成 30 年 6 月 11 日

報告番号 甲	第 号	氏 名	宮原 強
審 査 員	主 査		末岡 榮三朗 (末岡)
	副 査		副島 英伸
	副 査		相島 博一
論文題名	題 名 Severity and predictive factors of adverse events in pemetrexed-containing chemotherapy for non-small cell lung cancer. 雑誌名, 巻 (号のみの雑誌は号), 頁一頁, 発行西暦年 Medical Oncology, 34:195, DOI 10.1007/s12032-017-1053-8, 2017		
論文審査結果の 要旨	<p>ペメトレキセドは非小細胞肺癌の治療において重要な殺細胞薬であり、忍容性が高いことが報告されているが、症例によっては重篤な副作用が認められる。ペメトレキセドの治療中止に関与する副作用、及びその予測因子について検討を行った論文である。</p> <p>【方法】ペメトレキセドを含む4レジメンにて治療を行った非小細胞肺癌患者 257 例を対象に副作用発現状況について後ろ向き検討。多変量解析を用いて治療中止に関連していた副作用、及びその予測因子を抽出した。</p> <p>【結果】ペメトレキセド単独、もしくはベバシズマブ併用療法では grade 2/3 の悪心と倦怠感が、カルボプラチン併用群あるいはカルボプラチン+ベバシズマブ 3 剤併用療法では皮疹が化学療法中止に関与する副作用であることが示された。さらに、デキサメタゾンの用量が 4mg 未満の場合ペメトレキセド単独、もしくはベバシズマブ併用療法での grade 2/3 の悪心のリスクが高まることも示された。</p> <p>ペメトレキセド使用化学療法においては併用薬剤による非血液毒性のプロファイルが異なり、副作用マネジメントの重要性が示された。</p> <p>以上の成績は、化学療法のレジメンにおいて併用薬剤の組み合わせによる副作用発現と治療中止理由に違いが生じることを明らかにし、副作用対策においても個別化医療の必要性を示した新しい知見であり、意義あるものと考えられる。</p> <p>よって本論文は、博士 (医学) の学位論文として価値あるものと認めた。</p>		
最終試験の結果の 要旨	<p>最終試験において、各審査員より専門的な観点から論文内容及びこれに関連した事項について種々質問を行ったが、いずれについても適切な回答を得た。</p> <p>よって、審査員合議のうえ、大学院医学系研究科博士課程の最終試験に合格と決定した。</p>		
論文審査の結果	<input checked="" type="radio"/> 合格 <input type="radio"/> 不合格	最終試験の結果	<input checked="" type="radio"/> 合格 <input type="radio"/> 不合格
論文審査日	平成 30 年 6 月 11 日	最終試験日	平成 30 年 6 月 11 日
チェック <input checked="" type="checkbox"/>	論文審査において、研究指導計画書 (研究実施経過報告書) を活用した。		

学位論文審査及び最終試験の結果等報告書

平成30年8月17日

報告番号 甲	第 号	氏 名	秋永 和之
審 査 員	主 査 田 渕 康 子		
	副 査 市 場 正 良		
	副 査 		
論文題名	題 名 Using Videos to Analyze the Effectiveness of START Education for Japanese Nursing Students Asian Journal of Human Services, 15, 93-104, 2018.		
論文審査結果の 要旨	<p>本研究は、災害医療の人材教育に役立てるために、看護学生を対象に、動画教材を利用したSTART式トリアージの教育効果を検証することを目的としている。</p> <p>対象者は看護学科の1年生57名および4年生56名である。まず、学生は基本的なトリアージの概念および定義の講義を受けた後に、30症例の模擬患者の動画教材を視聴しトリアージを実施した。その後、START式トリアージに関する詳細な講義を受けた後に、同様の動画教材を用いてトリアージを実施し、教育前後のトリアージ結果を比較検討している。トリアージは、「Minor (Green Tag), Delayed (Yellow Tag), Immediate (Red Tag), Deceased (Black Tag)」の4段階で行う。また、START式トリアージは、「自立歩行の可否」「自発呼吸の有無」「1分間の呼吸の回数」「意識状態」「橈骨動脈触知の有無もしくは毛細血管再充満時間(CRT)」をもとにした判定方法である。</p> <p>トリアージの結果を30点満点で評価した結果、4年生の教育の前後で正解数の平均値を比較すると、教育前は平均23.5(±0.7)点、教育後は29.3(±0.2)点と教育後に有意に上昇した($p<0.001$)。1年生の教育前後の比較においても、教育前17.4(±0.6)点、から教育後29.1(±0.3)点と有意に上昇した($p<0.001$)。教育後は、1年生と4年生の正解数の間には、有意差は認められなかった。教育後には、1年生および4年生ともに、ほとんどの症例で正解率が95%以上となった。正解率が90%以下の症例は、1年生で2問、4年生で1問のみであった。START式トリアージの教育により、看護学生のトリアージ能力は飛躍的に向上した。医学的知識の少ない1年生でも効果があることが明らかとなった。</p> <p>以上の結果から、動画教材を利用したSTART式トリアージの教育効果の有効性が示唆された。自然災害が頻発している我が国において、START式トリアージは災害医療の現場で役立つ教育方法として、新しい知見を示しており、意義あるものと考えられる。</p> <p>よって本論文は、博士(医学)の学位論文として価値あるものと認めた。</p>		
最終試験の結果 の要旨	<p>最終試験において、各審査員より専門的な観点から論文内容及びこれに関連した事項について種々質問を行ったが、いずれについても適切な回答を得た。</p> <p>よって、審査員合議のうえ、大学院医学系研究科博士課程の最終試験に合格と決定した。</p>		
論文審査の結果	<input checked="" type="checkbox"/> 合格 不合格	最終試験の結果	<input checked="" type="checkbox"/> 合格 不合格
論文審査日	平成30年8月17日	最終試験日	平成30年8月17日
チェック <input checked="" type="checkbox"/>	論文審査において、研究指導計画書(研究実施経過報告書)を活用した。		

報告番号 甲	第 号	氏 名	芥川 剛至
審 査 員	主 査	相島 慎一	
	副 査	能成 浩和	
	副 査	甲斐 敬太	
論文題名	<p>題 名 Cancer-adipose tissue interaction and fluid flow synergistically modulate cell kinetics, HER2 expression, and trastuzumab efficacy in gastric cancer</p> <p>雑誌名, 巻 (号のみの雑誌は号), 頁-頁, 発行西暦年 Gastric Cancer, in press</p>		
論文審査結果の 要旨	<p>【目的】癌の増殖・転移には細胞間相互作用や物理的環境などの微小環境が重要である。胃には豊富な脂肪組織が存在するが胃癌との相互作用は未解明であり、胃液や食物の通過、間質液による流体刺激の役割も不明である。本研究では、胃癌細胞株に対する脂肪組織と流体刺激が及ぼす影響と分子標的薬への感受性を解析している。</p> <p>【方法】胃癌細胞株を脂肪組織を包埋したコラーゲン上に播種した群と、胃癌細胞株のみをコラーゲン上に播種した対象群を作製した。この二つの群で流体刺激と静置培養を行い、胃癌の細胞動態、MAPK 経路、HER2 発現を解析し、Trastuzumab に対する薬剤感受性の変化も解析した。</p> <p>【結果】脂肪組織は胃癌細胞株の増殖能、浸潤能を促進し、さらに ERK の発現を促進と p38 発現を抑制した。免疫染色では HER2 発現も促進した。流体刺激は脂肪組織誘導性の作用を増幅するとともに Trastuzumab への感受性を変化させた。</p> <p>【考察】脂肪細胞と流体刺激は胃癌の悪性度に寄与する因子で、HER2 蛋白発現に影響を及ぼした。また胃癌細胞の分子標的薬への感受性を変化させることが示唆された。</p> <p>以上の成績は、胃癌の微小環境について新しい知見を加えたものであり、意義あるものと考えられる。</p> <p>よって本論文は、博士 (医学) の学位論文として価値あるものと認めた。</p>		
最終試験の結果 の要旨	<p>最終試験において、各審査員より専門的な観点から論文内容及びこれに関連した事項について種々質問を行ったが、いずれについても適切な回答を得た。</p> <p>よって、審査員合議のうえ、大学院医学系研究科博士課程の最終試験に合格と決定した。</p>		
論文審査の結果	Ⓔ合格 不合格	最終試験の結果	Ⓔ合格 不合格
論文審査日	平成 30 年 8 月 7 日	最終試験日	平成 30 年 8 月 7 日
チェック ■	論文審査において、研究指導計画書 (研究実施経過報告書) を活用した。		

学位論文審査及び最終試験の結果等報告書(見本)

平成 30 年 8 月 21 日

報告番号 甲	第 号	氏 名	杉崎 信行
審 査 員	主 査	安西 慶三 (署名)	
	副 査	柳本 孝一 (署名)	
	副 査	尾崎 岩太 (署名)	
論文題名	<p>題 名 A case-control of the risk of upper gastrointestinal mucosal injuries in patients prescribed concurrent NSAIDs and antithrombotic drugs based on data from the Japanese national claims database of 13 million accumulated patients</p> <p>雑誌名, Journal of Gastroenterology. 2018 Jun;12. DOI:10.1007/s00535-018-1483-x</p>		
論文審査結果の 要旨	<p>本論文は、ビッグデータを用いた NSAIDs、抗血栓薬の服用に起因する薬剤性上部消化管傷害の発生リスクについて述べている。</p> <p>ビッグデータとして株式会社日本医療データセンター(JMDC)が収集したレセプトデータベースを用い、2009年1月～2014年12月の間に在籍した20～74歳の延べ1300万人を対象とした。期間内に消化性潰瘍(143,271例)、上部消化管出血(10,545例)、胃食道逆流症(154,755例)を発生したケース1例に対して、コントロール10例(ただし他疾患を罹病した者)をマッチングし、ロジスティック回帰分析を行った。</p> <p>その結果、NSAIDs、COX2選択的阻害薬、低用量アスピリン、抗血小板薬、抗凝固薬服用によるオッズ比は、それぞれ消化性潰瘍で1.45, 1.31, 1.50, 1.53, 1.62、上部消化管出血で1.76, 1.62, 1.96, 1.82, 2.38、胃食道逆流症で1.54, 1.41, 1.89, 1.67, 1.91であり、いずれも疾患の発生に有意($P < 0.001$)に関与していた。薬剤の多剤使用はリスクを高めた。</p> <p>このことから NSAIDs、抗血栓薬の服用は上部消化管傷害の発症リスク上昇に関与していた。</p> <p>以上の成績は、同一の大規模データベース内で、5種の薬剤服用と3つの上部消化管傷害の発生リスクの関係性を同時に評価した初めての研究で新しい知見を加えたものであり、意義あるものと考えられる。</p> <p>よって本論文は、博士(医学)の学位論文として価値あるものと認めた。</p>		
最終試験の結果 の要旨	<p>最終試験において、各審査員より専門的な観点から論文内容及びこれに関連した事項について種々質問を行ったが、いずれについても適切な回答を得た。</p> <p>よって、審査員合議のうえ、大学院医学系研究科博士課程の最終試験に合格と決定した。</p>		
論文審査の結果	<input checked="" type="checkbox"/> 合格 <input type="checkbox"/> 不合格	最終試験の結果	<input checked="" type="checkbox"/> 合格 <input type="checkbox"/> 不合格
論文審査日	平成30年 8月 21日	最終試験日	平成30年 8月 21日
チェック <input type="checkbox"/> <input checked="" type="checkbox"/>	論文審査において、研究指導計画書(研究実施経過報告書)を活用した。		

学位論文審査及び最終試験の結果等報告書

平成30年8月20日

報告番号 甲	第 号	氏 名	嬉野 博志
審 査 員	主 査	副島英伸	
	副 査	平田修二	
	副 査	吉田裕樹	
論文題名	<p>題 名 Allelic Polymorphisms of KIRs and HLAs Predict Favorable Responses to Tyrosine Kinase Inhibitors in CML</p> <p>雑誌名, 巻 (号のみの雑誌は号), 頁一頁, 発行西暦年 Cancer Immunol Res. 2018 Jun;6(6):745-754</p>		
論文審査結果の 要旨	<p>慢性骨髄性白血病 (CML) のチロシンキナーゼ阻害剤 (TKIs) に対する治療反応性は症例毎に異なる。治療中に Natural killer (NK) 細胞が増加する症例は予後良好であることから、NK 細胞の表現型や機能に影響を与える <i>Killer immunoglobulin-like receptor (KIR)</i> 遺伝子アレルの多型と CML の治療反応性との相関について検証した。</p> <p>慢性期 CML 患者 76 名の末梢血由来 DNA を用いて、次世代シーケンサーで <i>KIR</i> アレルのタイピングを行い、治療効果 ($MR^{4.0}$:BCR-ABL 転写物が 4-log 減少) との関連性を解析した。多変量解析にて、第2世代 TKI による初期治療と性別 (女性) が治療効果と有意に関連する因子として抽出された。次に、これら二つの因子で調整した単変量解析を行ったところ、$MR^{4.0}$ 達成因子として以下のアレルが抽出された。</p> <p><i>KIR2DL4*005/011</i> or <i>*008</i> (HR = 1.797, $p = 0.032$) <i>KIR2DS4*003</i> or <i>*007/010</i> (HR = 3.348, $p < 0.001$) <i>KIR3DL1*005</i> (HR = 2.746, $p = 0.003$) <i>KIR3DL2*009</i> or <i>*010</i> (HR = 1.980, $p = 0.021$)</p> <p>また、<i>KIR3DL1</i> アレルと HLA-B アレルにおいて、親和性がない組み合わせ (non-interacting) は治療効果が高く、親和性が低い組み合わせ (weak-interacting) においても <i>KIR3DL1*005</i> を持っていれば治療効果が高いことがわかった。したがって、<i>KIR3DL1*005</i> およびこれに関連するハプロタイプが治療効果と相関することが明らかとなり、<i>KIR/HLA</i> アレル解析によって TKIs の CML 治療効果を予測できる可能性が示された。</p> <p>よって本論文は、博士 (医学) の学位論文として価値あるものと認めた。</p>		
最終試験の結果 の要旨	<p>最終試験において、各審査員より専門的な観点から論文内容及びこれに関連した事項について種々質問を行ったが、いずれについても適切な回答を得た。</p> <p>よって、審査員合議のうえ、大学院医学系研究科博士課程の最終試験に合格と決定した。</p>		
論文審査の結果	(合格) 不合格	最終試験の結果	(合格) 不合格
論文審査日	平成30年8月20日	最終試験日	平成30年8月20日
チェック ✓	論文審査において、研究指導計画書 (研究実施経過報告書) を活用した。		

学位論文審査及び最終試験の結果等報告書

平成30年12月3日

報告番号 甲	第 号	氏 名	曲渕 裕樹
審 査 員	主 査	李 岡 榮 三 朗	
	副 査	木 村 晋 也	
	副 査	青 木 敦 久	
論文題名	<p>題 名 Clinical utility of direct application of matrix-assisted laser desorption ionization time-of-flight mass spectrometry and rapid disk diffusion test in presumptive antimicrobial therapy for bacteremia. 雑誌名, 巻 (号のみの雑誌は号), 頁一頁, 発行西暦年 Journal of Infection and Chemotherapy, 24, 881-886, 2018</p>		
論文審査結果の 要旨	<p>目的:感染症医によるコンサルテーション体制が整っている第3次教育医療機関において、MALDI-TOF-MSによる迅速同定と迅速ディスク法による薬剤感受性検査が、菌血症患者のマネージメントや予後に与える影響を調査することを目的とした。</p> <p>方法:血液培養陽性検体よりそれぞれ直接、MALDI-TOF-MSによる迅速同定と8時間の迅速ディスク法による薬剤感受性検査をおこない、血液培養陽性日にこれらの結果にもとづいた抗菌薬選択の修正をおこなった群(介入群; n=119)と、MALDI-TOF-MS導入前の期間(コントロール群; n=129)と比較し、適切な抗菌薬選択の割合、予後は改善の有無に関して解析をおこなった。</p> <p>結果:血液培養陽性時点での適切な抗菌薬選択がなされていた症例の割合は、コントロール群(93.8%)より介入群(99.2%)の方が有意に高かった(p 0.024)。しかし、28日以内の死亡率には差がなかった(コントロール群14.8%、介入群16.8%)(p 0.668)。抗MRSA薬やカルバペネム系薬の使用期間に関しては両群で差はなく、MALDI-TOF-MS導入が最終的な予後改善効果をもたらしてはいなかった。</p> <p>考察・結論:質量分析を臨床応用した本介入は、感染症医のコンサルテーション体制が整っている当院においては、菌血症患者の予後の改善に付加的価値を与えてはいなかった。しかし、菌種同定と同時に抗菌薬選択が可能である一部の菌種による菌血症診療においては、標的治療までの期間を短縮することが可能である。これらの知見は、今後、質量分析を応用しようとする感染症診療の費用対効果の推算に際し、有用な情報として寄与できるものと考えられる。よって本論文は、博士(医学)の学位論文として価値あるものと認めた。</p>		
最終試験の結果 の要旨	<p>最終試験において、各審査員より専門的な観点から論文内容及びこれに関連した事項について種々質問を行ったが、いずれについても適切な回答を得た。よって、審査員合議のうえ、学位論文審査及び最終試験に合格と決定した。</p>		
論文審査の結果	<input checked="" type="radio"/> 合格 <input type="radio"/> 不合格	最終試験の結果	<input checked="" type="radio"/> 合格 <input type="radio"/> 不合格
論文審査日	平成30年12月3日	最終試験日	平成30年12月3日
チェック ■	論文審査において、研究指導計画書(研究実施経過報告書)を活用した。		

学位論文審査及び最終試験の結果等報告書

平成30年12月5日

報告番号 甲	第 号	氏 名	笹栗 智子
審 査 員	主 査	坂口 嘉郎	
	副 査	城戸 瑞穂	
	副 査	舟田 浩樹	
論文題名	<p>題 名 Interleukin-27 controls basal pain threshold in physiological and pathological conditions.</p> <p>Scientific Reports, 8, 11022, 2018</p>		
論文審査結果の 要旨	<p>Interleukin-27 (IL-27) は、T細胞の分化を調節し、IL-17 産生抑制、IL-10 産生増加をもたらすことで抗炎症性に働くことが知られていた。本論文では、IL-27 と痛みの関係を研究した。</p> <p>IL-27 遺伝子欠損 (KO) マウスの疼痛行動を調べたところ、温度刺激、機械刺激に対して生来過敏であった。この表現型はリコンビナント IL-27 を腹腔内投与することで正常化し、野生型マウスに IL-27 の中和抗体を投与することで再現された。さらに、IL-27 KO マウスに既存の慢性痛モデルを適用するとより重度の過敏が誘導された。また、皮膚神経標本においても行動実験と同様の表現型が再現されていた。さらに、責任部位を調べるため、野生型マウスの足底に IL-27 の中和抗体を投与したところ、過敏が誘導された。</p> <p>以上の結果から、IL-27 は持続的に感覚閾値を調節しており、その欠損は閾値を低下させることが示された。その機序は既存の慢性痛モデルのものと異なる新規のものであり、皮膚を含む末梢組織がその作用部位であることが示唆された。</p> <p>以上の新しい知見により、本論文は博士 (医学) の学位論文として価値あるものと認めた。</p>		
最終試験の結果 の要旨	<p>最終試験において、各審査員より専門的な観点から論文内容及びこれに関連した事項について種々質問を行ったが、いずれについても適切な回答を得た。</p> <p>よって、審査員合議のうえ、大学院医学系研究科博士課程の最終試験に合格と決定した。</p>		
論文審査の結果	<input checked="" type="radio"/> 合格 不合格	最終試験の結果	<input checked="" type="radio"/> 合格 不合格
論文審査日	平成30年12月5日	最終試験日	平成30年12月5日
チェック <input checked="" type="checkbox"/>	論文審査において、研究指導計画書 (研究実施経過報告書) を活用した。		

平成30年12月27日

報告番号 甲	第 号	氏 名	岡本 憲洋
審 査 員	主 査 安西 慶三		(安西)
	副 査 入江 裕之		(入江)
	副 査 阪本 雄一郎		(阪本)
論文題名	題 名 Lower Rebleeding Rate after Endoscopic Band Ligation than Endoscopic Clipping of the Same Colonic Diverticular Hemorrhagic Lesion: A Historical Multicenter Trial in Saga, Japan. 雑誌名, 巻 (号のみの雑誌は号), 頁-頁, 発行西暦年 Internal Medicine. Advance Publication DOI:10.2169/internalmedicine.1473-18		
論文審査結果の 要旨	<p>本論文は大腸憩室出血患者に対する大腸内視鏡治療として、結紮術(Endoscopic Band Ligation: EBL)止血群とクリップ (Endoscopic Clipping: EC)止血群で、i)再出血率、ii)止血処置した憩室からの再出血率の両面で比較し、さらに再出血リスク因子について述べている。</p> <p>対象者は大腸憩室出血に対して EBL または EC による止血術を施行し、止血に成功した135患者 (EBL群67例、EC群68例)である。内視鏡的止血術後に再出血を来した患者は EBL 群で7例(10%)、EC群で21例(31%)であり、EBL群で有意に少なかった。同じ憩室からの再出血で検討すると EBL 群で4例(4%)、EC群で15例(22%)と同様に EBL 群で少なかった。多変量解析の結果再出血の独立したリスク因子として右側結腸からの憩室出血が示された (オッズ比: 4.48;95%CI:1.22-16.46;P=0.02)。</p> <p>本検討において、EBL 群の方が EC 群よりも再出血が少ないのは、止血処置した憩室からの再出血の少なさが主な理由と考えられ、EBL は再出血の予防の点で優れた止血法である可能性が示された。</p> <p>以上の成績は、大腸憩室出血患者に対する大腸内視鏡治療について EBL 群と EC 群を比較し、EBL 群の有意性と再出血のリスク因子について、新しい知見を加えたものであり、意義あるものと考えられる。</p> <p>よって本論文は、博士 (医学) の学位論文として価値あるものと認めた。</p>		
最終試験の結果の 要旨	<p>最終試験において、各審査員より専門的な観点から論文内容及びこれに関連した事項について種々質問を行ったが、いずれについても適切な回答を得た。</p> <p>よって、審査員合議のうえ、大学院医学系研究科博士課程の最終試験に合格と決定した。</p>		
論文審査の結果	(合格) 不合格	最終試験の結果	(合格) 不合格
論文審査日	平成30年12月27日	最終試験日	平成30年12月27日
チェック □✓	論文審査において、研究指導計画書 (研究実施経過報告書) を活用した。		

学位論文審査及び最終試験の結果等報告書

平成 30 年 12 月 27 日

報告番号 甲	第 号	氏 名	川内 孝次郎
審 査 員	主 査 安西 慶三		(安西)
	副 査 野出 孝一		(野出)
	副 査 江村 正		(江村)
論文題名	<p>題 名 Higher frequency of upper gastrointestinal symptoms in healthy young Japanese females compared to males and older generations. 健康成人での上部消化器症状を訴える頻度は、女性において男性より多く、年齢上昇とともに減少する 雑誌名, 巻 (号のみの雑誌は号), 頁-頁, 発行西暦年 Esophagus, 15:83-87, 2018</p>		
論文審査結果の 要旨	<p>本論文は、佐賀県内および周辺の医療機関における人間ドック・健診受診者と佐賀大学医学部学生健康ボランティアにおいて、上部消化器症状の訴えが性別や世代によって違いがあるかについて述べている。 対象者は 2007 年から 2013 年の期間の 4086 人である。上部消化器症状に関しては、質問票(Frequency Scale for the Symptoms of GERD:FSSG)にてスコア化した。4086 人中、上部消化管内視鏡にて逆流性食道炎の所見がなく、ヘリコバクター・ピロリ感染のない 20 歳から 79 歳の 2414 人に対して解析を行った。2414 人を男女別々に 10 歳毎に症状スコアの関連から分析した。症状スコアは男性より女性が有意に高かった。男性・女性において症状スコアは 20 歳代で高く、年齢が上昇するとともに症状スコアは減少した。 以上の成績は、ヘリコバクター・ピロリ感染がなく、内視鏡的に器質的な疾患を認めない対象者について上部消化器症状の訴えと性別や世代による関係について、新しい知見を加えたものであり、意義あるものと考えられる。 よって本論文は、博士 (医学) の学位論文として価値あるものと認めた。</p>		
最終試験の結果 の要旨	<p>最終試験において、各審査員より専門的な観点から論文内容及びこれに関連した事項について種々質問を行ったが、いずれについても適切な回答を得た。 よって、審査員合議のうえ、大学院医学系研究科博士課程の最終試験に合格と決定した。</p>		
論文審査の結果	(合格) 不合格	最終試験の結果	(合格) 不合格
論文審査日	平成 30 年 12 月 27 日	最終試験日	平成 30 年 12 月 27 日
チェック <input type="checkbox"/> <input checked="" type="checkbox"/>	論文審査において、研究指導計画書 (研究実施経過報告書) を活用した。		

平成 30 年 12 月 17 日

報告番号 甲	第 号	氏 名	Wang Chong
審 査 員	主 査	阿部 貴也	
	副 査	坂口 嘉郎	
	副 査	城戸 瑞穂	
論文題名	<p>題 名 Orexin B Modulates Spontaneous Excitatory and Inhibitory Transmission in Lamina II Neurons of Adult Rat Spinal Cord.</p> <p>雑誌名, 巻 (号のみの雑誌は号), 頁-頁, 発行西暦年 Neuroscience. 383:114-128, 2018</p>		
論文審査結果の 要旨	<p>オレキシン B (OXB) を含む視床下部のニューロンは、脊髄後角に投射して鎮痛に働くが、詳細な作用機序は不明であった。そこで、成熟雄ラット脊髄横断スライス標本の後角第 II 層ニューロンにパッチクランプ法を用いて、OXB (0.05 μM) が興奮性および抑制性の自発性シナプス伝達に及ぼす作用を調べた。その結果、OXB はグルタミン酸を介する自発性興奮性シナプス後電流の振幅を変化させずにその発生頻度を増加させること、この増加とは無関係に保持膜電位-70mV で内向き膜電流を生じることを見出した。この OXB 作用は電位作動性 Na⁺チャンネル阻害薬であるテトロドトキシンやオレキシン-1 受容体阻害薬 SB334867 に抵抗性であったが、オレキシン-2 受容体阻害薬 JNJ10397049 によって作用が消失した。一方、OXB はグリシン作動性の自発性抑制性シナプス後電流の発生頻度や増幅を増加させたが、GABA 作動性のものにはほとんど影響しなかった。このような増加は、オレキシン-1 受容体阻害薬 SB334867 には抵抗を示したが、テトロドトキシンやオレキシン-2 受容体阻害薬 JNJ10397049 では作用が消失した。以上のことから、OXB はオレキシン-2 受容体を活性化し、神経終末から起こるグルタミン酸の自発放出の増加や膜の脱分極を生じさせた結果、グリシン作動性の自発性抑制性シナプス伝達を促進させることが分かった。このような機序は OXB の鎮痛に関与していることが示唆された。</p> <p>以上の成績は、オレキシンの成熟ラット脊髄後角第 II 層ニューロンの自発性の興奮性および抑制性シナプス伝達修飾作用について、新しい知見を加えたものであり、意義あるものと考えられる。よって本論文は、博士 (医学) の学位論文として価値あるものと認めた。</p>		
最終試験の結果 の要旨	<p>最終試験において、各審査員より専門的な観点から論文内容及びこれに関連した事項について種々質問を行ったが、いずれについても適切な回答を得た。よって、審査員合議のうえ、大学院医学系研究科博士課程の最終試験に合格と決定した。</p>		
論文審査の結果	<input checked="" type="radio"/> 合格 <input type="radio"/> 不合格	最終試験の結果	<input checked="" type="radio"/> 合格 <input type="radio"/> 不合格
論文審査日	平成 30 年 12 月 17 日	最終試験日	平成 30 年 12 月 17 日
チェック <input type="checkbox"/>	論文審査において、研究指導計画書 (研究実施経過報告書) を活用した。		

学位論文審査及び最終試験の結果等報告書

平成 31 年 2 月 13 日

報告番号 甲	第 号	氏 名	吉岡 智美
審 査 員	主 査 入江 裕之		
	副 査 辰崎 若太		
	副 査 青木 取 久		
論文題名	題 名 <i>Helicobacter pylori</i> Infection Status Had No Influence on Upper Gastrointestinal Symptoms: A Cross-Sectional Analysis of 3,005 Japanese Subjects without Upper Gastrointestinal Lesions Undergoing Medical Health Checkups 雑誌名, 巻 (号のみの雑誌は号), 頁-頁, 発行西暦年 Esophagus 14(3): 249-253, 2017		
論文審査結果の 要旨	<p>本論文は、内視鏡所見のない患者においてピロリ菌感染、その除菌治療が、上部消化管症状（上部消化管運動不全症状と酸逆流症状）に及ぼす影響について検討している。</p> <p>2013年1月～12月までに、佐賀県周辺5病院で人間ドックを受診した3,505人のうち、上部消化管内視鏡で所見を認めた患者、制酸剤や消化管運動促進薬等の内服加療中の患者など計500人を除外した3,005人を対象とした。これら対象のピロリ菌感染について調べ、除菌歴の有無は問診やカルテで確認を行い、対象者全員にFスケール問診票を用いて上部消化管症状を調べた。</p> <p>ピロリ菌陽性者は全体の29.8%であった(894/3,005)。除菌治療成功者は458対象者の中の440例であった。ピロリ菌感染者と非感染者では上部消化管運動不全症状に差は見られなかった。酸逆流症状はピロリ菌非感染者において、ピロリ菌感染者より有意に高いという結果であった。ピロリ菌除菌治療は運動不全症状および酸逆流症状のいずれにも影響を与えなかった。除菌後の経過年数でも評価したが、差は得られなかった。</p> <p>日本人の比較的健康成人である人間ドック受診者においては、ピロリ菌感染と除菌は上部消化管運動不全症状に影響を及ぼさない可能性が示された。</p> <p>以上の成績は、ヘリコバクターピロリ感染と除菌治療は上部消化管症状に影響を与えないという新しい知見を加えたものであり、意義あるものと考えられる。</p> <p>よって本論文は、博士(医学)の学位論文として価値あるものと認めた。</p>		
最終試験の結果 の要旨	<p>最終試験において、各審査員より専門的な観点から論文内容及びこれに関連した事項について種々質問を行ったが、いずれについても適切な回答を得た。</p> <p>よって、審査員合議のうえ、大学院医学系研究科博士課程の最終試験に合格と決定した。</p>		
論文審査の結果	<input checked="" type="radio"/> 合格 <input type="radio"/> 不合格	最終試験の結果	<input checked="" type="radio"/> 合格 <input type="radio"/> 不合格
論文審査日	平成 31 年 2 月 13 日	最終試験日	平成 31 年 2 月 13 日
チェック <input type="checkbox"/>	論文審査において、研究指導計画書(研究実施経過報告書)を活用した。		

平成 31 年 2 月 12 日

報告番号 甲	第 号	氏 名	樋高 秀憲
審 査 員	主 査	出 原 眞 裕	
	副 査	池 田 義 孝	
	副 査	相 島 慎 一	
論文題名	<p>題 名 Comprehensive methylation analysis of imprinting-associated differentially methylated regions in colorectal cancer</p> <p>雑誌名, 巻 (号のみの雑誌は号), 頁-頁, 発行西暦年 Clinical Epigenetics, 10: 150, 2018</p>		
論文審査結果の 要旨	<p>本研究では、大腸癌におけるインプリント DMR (iDMR) の包括的メチル化について解析を行うとともに、iDMR メチル化状態と他のメチル化関連因子との関係性について解析を行っている。</p> <p>106 ペアの大腸癌組織と正常粘膜において、38 個の iDMR のメチル化を解析した結果、大腸癌の iDMR は総じて高メチル化を示すとともに、異常メチル化群、メチル化抵抗群、中間群に分類された。複数の iDMR における高メチル化異常は CpG island methylator phenotype (CIMP) と関連したが、KRAS および BRAF 変異とは関連しなかった。また、3ヶ所の iDMR のメチル化異常をスコア化すると、予後予測が可能となった。</p> <p>以上の結果より、大腸癌では iDMR は高メチル化されやすいが、KRAS/BRAF 経路とは独立した機序によると考えられた。また、iDMR のメチル化異常に基づく予後予測スコアは、今後患者の予後予測に応用できる可能性が示唆された。</p> <p>よって本論文は、博士 (医学) の学位論文として価値あるものと認めた。</p>		
最終試験の結果 の要旨	<p>最終試験において、各審査委員より専門的な観点から論文内容及びこれに関連した事項について種々質問を行ったが、いずれについても適切な回答を得た。</p> <p>よって、審査委員合議のうえ、大学院医学系研究科博士課程の最終試験に合格と決定した。</p>		
論文審査の結果	<input checked="" type="radio"/> 合格 <input type="radio"/> 不合格	最終試験の結果	<input checked="" type="radio"/> 合格 <input type="radio"/> 不合格
論文審査日	平成 31 年 2 月 12 日	最終試験日	平成 31 年 2 月 12 日
チェック <input checked="" type="checkbox"/>	論文審査において、研究指導計画書 (研究実施経過報告書) を活用した。		

学位論文審査及び最終試験の結果等報告書

平成31年2月6日

報告番号 甲	第 号	氏 名	郭 婧
審 査 員		主 査	副島 英伸
		副 査	相島 慎一
		副 査	江口 有一郎
論文題名	題 名 PDCD4 knockdown induces senescence in hepatoma cells by up-regulating the p21 expression 雑誌名、巻（号のみの雑誌は号）、頁一頁、発行西暦年 Frontiers in Oncology, 8:661, 2018		
論文審査結果の 要旨	<p>本論文では、tumor suppressor programmed cell death 4 (PDCD4) の細胞周期における機能を解析するため、肝細胞癌由来の細胞株 HepG2 (p53 wild type)、Huh7 (p53 mutant, p16 deficient)、Hep3B (p53 deficient, p16 deficient) を用いて、PDCD4 のノックダウン (KD) 実験を行っている。</p> <p>これによると、PDCD4 の KD により、細胞増殖が抑制された。これは、各種 CDK の発現低下、CKI である p21 の発現上昇、Rb のリン酸化減少に起因することがわかった。また、p21 の発現上昇は p53 の状態に関わらず生じていた。細胞増殖抑制がアポトーシスによるか否かを検討したところ、Huh7 (p53 mut, p16(-)), Hep3B (p53(-), p16(-)) に比べて、HepG2 (p53 wild) でアポトーシス細胞を多く認めたことから、アポトーシスは p53 依存的であることがわかった。一方、Huh7 と Hep3B でもアポトーシス細胞が認められたことから、p53 非依存的な細胞死のメカニズムが考えられた。さらに、β-ガラクトシダーゼ活性を指標に細胞老化を調べたところ、すべての細胞株で老化細胞の増加を認めた。p21 を KD したところ、PDCD4 の KD による CDK の発現低下、p21 の発現上昇、Rb のリン酸化減少がレスキューされ、老化細胞が減少した。</p> <p>以上の結果は、PDCD4 の細胞周期および細胞老化における新しい知見を加えたものであり、意義あるものと考えられる。</p> <p>よって本論文は、博士 (医学) の学位論文として価値あるものと認めた。</p>		
最終試験の結果 の要旨	<p>最終試験において、各審査員より専門的な観点から論文内容及びこれに関連した事項について種々質問を行ったが、いずれについても適切な回答を得た。</p> <p>よって、審査員合議のうえ、大学院医学系研究科博士課程の最終試験に合格と決定した。</p>		
論文審査の結果	(合格) 不合格	最終試験の結果	(合格) 不合格
論文審査日	平成31年2月6日	最終試験日	平成31年2月6日
チェック ✓	論文審査において、研究指導計画書 (研究実施経過報告書) を活用した。		

平成 31 年 2 月 13 日

報告番号 甲	第 号	氏 名	奥山 桂一郎
審 査 員		主 査	出 原 慎 治
		副 査	副 島 英 伸
		副 査	平 岡 修 二
論文題名	<p>題 名 Mieap-induced accumulation of lysosomes within mitochondria (MALM) regulates gastric cancer cell invasion under hypoxia by suppressing reactive oxygen species accumulation</p> <p>雑誌名, 巻 (号のみの雑誌は号), 頁-頁, 発行西暦年 Scientific Reports, in press</p>		
論文審査結果の 要旨	<p>本研究は、癌の悪性度とミトコンドリア品質管理による活性酸素との関係についての解析・検討を目的としている。</p> <p>解析した二つの胃癌細胞株の内、58As9 は細胞浸潤能が高く、ミトコンドリア ROS が蓄積されるのに対し、MKN45 は浸潤能が低く、mtROS の蓄積も認めなかった。58As9 では Mieap の発現が見られず、そのため Mieap によるミトコンドリア内でのリソゾーム蓄積 (MALM) 機構が働かず、低酸素状態ではミトコンドリア ROS が蓄積し、浸潤能が増強されると考えられた。一方で、MKN45 では Mieap が発現しており、そのため低酸素状態でもミトコンドリア ROS は蓄積しないと考えられた。MKN45 において Mieap の発現を抑制するとミトコンドリア ROS が蓄積し、その結果浸潤能が増強した。</p> <p>以上の結果より、胃癌細胞株において、Mieap 発現に伴う MALM 機構が低酸素環境において働くことにより ROS 蓄積を抑制し、細胞浸潤能を抑制していると考えられた。これは胃癌細胞における細胞浸潤能の機序を示す重要な結果であると考えられた。</p> <p>よって本論文は、博士 (医学) の学位論文として価値あるものと認めた。</p>		
最終試験の結果の 要旨	<p>最終試験において、各審査委員より専門的な観点から論文内容及びこれに関連した事項について種々質問を行ったが、いずれについても適切な回答を得た。</p> <p>よって、審査委員合議のうえ、大学院医学系研究科博士課程の最終試験に合格と決定した。</p>		
論文審査の結果	<input checked="" type="radio"/> 合格 <input type="radio"/> 不合格	最終試験の結果	<input checked="" type="radio"/> 合格 <input type="radio"/> 不合格
論文審査日	平成 31 年 2 月 13 日	最終試験日	平成 31 年 2 月 13 日
チェック <input checked="" type="checkbox"/>	論文審査において、研究指導計画書 (研究実施経過報告書) を活用した。		

学位論文審査及び最終試験の結果等報告書

平成 31 年 1 月 28 日

報告番号 甲	第 号	氏 名	中島 千穂
審 査 員	主 査	副島 英伸	
	副 査	相島 慎一	
	副 査	甲斐 政太	
論文題名	<p>題 名 Automated DNA extraction using cellulose magnetic beads can improve EGFR point mutation detection with liquid biopsy by efficiently recovering short and long DNA fragments</p> <p>雑誌名, 巻 (号のみの雑誌は号), 頁一頁, 発行西暦年 Oncotarget, 2018, Vol. 9, (No. 38), pp: 25181-25192</p>		
論文審査結果の 要旨	<p>Liquid biopsy に用いられる circulating free DNA (cfDNA) は、絶対量・相対量ともに少量であり、その抽出方法が検査結果を左右しうる。本論文では、DNA 抽出法により、患者血漿からの EGFR (上皮成長因子受容体) 遺伝子の変異検出率が変化するか検討した。</p> <p>肺癌組織で EGFR L858R 陽性である進行肺癌患者 41 例、陰性患者 20 例、健常人 10 例の血漿から、3 種類の方法 (手動シリカメンブレンスピнкаラム法 200 μL; 200-M、自動セルロース磁気ビーズ法 200 μL; 200-A、自動セルロース磁気ビーズ法 1000 μL; 1000-A) で DNA を抽出し、MBP-QP 法により EGFR L858R を検出した。その結果、DNA 回収量は 200-M と 200-A で有意差はなかったが、1000-A で使用した血漿量に応じてより多くの DNA を回収できた。EGFR L858R については、3 群間で感度と一致率に有意差を認めた。また、自動セルロース磁気ビーズ法では、170 bp の DNA 断片に加え 5 kb 程度の長い DNA 断片が回収された。更に、EGFR L858R は両方の断片の DNA から検出された。</p> <p>以上の結果は、自動セルロース磁気ビーズ法は、広範なサイズの cfDNA 抽出を可能とし、EGFR L858R の検出率を向上させると考えられた。</p> <p>一方、論文中的文章とデータの齟齬、数値の誤りが認められた。そのため、論文内容の訂正を出版社に申し出ること、200-A と 200M の 2 群間の統計学的検討を行うことを申請者に課した。平成 31 年 1 月 28 日に、これらの事項を確認した。</p> <p>よって本論文は、博士 (医学) の学位論文として価値あるものと認めた。</p>		
最終試験の結果 の要旨	<p>最終試験において、各審査員より専門的な観点から論文内容及びこれに関連した事項について種々質問を行ったが、いずれについても適切な回答を得た。</p> <p>よって、審査員合議のうえ、大学院医学系研究科博士課程の最終試験に合格と決定した。</p>		
論文審査の結果	合格 不合格	最終試験の結果	合格 不合格
論文審査日	平成 30 年 12 月 28 日	最終試験日	平成 31 年 1 月 28 日
チェック ✓	論文審査において、研究指導計画書 (研究実施経過報告書) を活用した。		

学位論文審査及び最終試験の結果等報告書

平成31年1月23日

報告番号 甲	第 号	氏 名	山地 康太郎
審 査 員	主 査	江口 海一郎	
	副 査	安西 慶三	
	副 査	尾崎 岩太	
論文題名	<p>題 名 Occult HBV infection status and its impact on surgical outcomes in patients with curative resection for HCV-associated hepatocellular carcinoma</p> <p>雑誌名, 巻 (号のみの雑誌は号), 頁-頁, 発行西暦年 HepatoBiliary Surgery and Nutrition, in press .</p>		
論文審査結果の 要旨	<p>本論文は、C型肝炎に発生した肝細胞癌（HCC）の外科的根治切除例の摘出標本を用いて、HBs抗原陰性にも関わらず、組織中からHBV-DNAが検出される状態であるオカルトHBV感染（OBI）感染率と、OBIが術後予後に与える影響について検討した論文である。</p> <p>方法は、佐賀大学医学部附属病院で外科的切除されたHCC 478例のうち、HBs抗原陰性、HCV抗体陽性である257例を対象とし、背景肝のホルマリン固定パラフィン包埋ブロックよりDNAを抽出し、リアルタイムPCR法によりHBV-DNAのHBs領域、HBx領域、HBc領域について検出を行った。2領域以上でDNA増幅を認めた例をOBIとした。結果は、OBI例は、257例中15例（5.8%）であった。OBI群と非OBI群間で、臨床病理学的因子を比較したが、2群間で有意差は認めなかった。術後予後に関する解析では、OBIはdisease specific survival (DSS)と弱い相関はあるものの（$P=0.0603$）、overall survival (OS)、disease free survival (DFS)、DSSのいずれにおいても、統計学的に有意な相関は認めなかった。結論として、HCV陽性HCC切除例の5.8%にOBIを認め、OBIはDSSと弱い相関があったものの、術後予後において統計学的に有意な相関を認めなかった。</p> <p>以上の成績は、C型肝炎を背景とするHCC症例におけるOBIについて新しい知見を加えたものであり、意義あるものと考えられる。</p> <p>よって本論文は、博士（医学）の学位論文として価値あるものと認めた。</p>		
最終試験の結果 の要旨	<p>最終試験において、各審査員より専門的な観点から論文内容及びこれに関連した事項について種々質問を行ったが、いずれについても適切な回答を得た。</p> <p>よって、審査員合議のうえ、大学院医学系研究科博士課程の最終試験に合格と決定した。</p>		
論文審査の結果	合格 不合格	最終試験の結果	合格 不合格
論文審査日	平成31年 1月 23日	最終試験日	平成31年 1月 23日
チェック <input checked="" type="checkbox"/>	論文審査において、研究指導計画書（研究実施経過報告書）を活用した。		

平成 31 年 2 月 7 日

報告番号 甲	第 号	氏 名	山崎 智子
審 査 員	主 査	江口 祐一郎	
	副 査	尾崎 若石	
	副 査	多田 芽更	
論文題名	題 名 Shorter relapse-free period after leukocyte removal therapy in younger than older patients with ulcerative colitis 雑誌名, 巻 (号のみの雑誌は号), 頁一頁, 発行西暦年 Digestion, in press		
論文審査結果の 要旨	<p>本論文は、潰瘍性大腸炎に対する寛解導入において効果的な治療法の一つである血球成分除去療法 (leukocyte removal therapy: LRT) による寛解導入後の寛解維持に影響を及ぼす因子について言及している。</p> <p>これによると、中等症から重症の潰瘍性大腸炎患者で初回 LRT を行った 94 人を対象として、無作為に LCAP (leukocytapheresis) または GMA (granulocyte and monocyte/macrophage adsorptive apheresis) に割り当てられ、LRT の有効性、LRT 後 5 年間の寛解維持率および再発に関連する因子について評価し、結果として、治療奏功率は GMA82%、LCAP70%であり両者に有意差は認めなかった。LRT 後 5 年間の寛解維持率は 34.7%で、特に 40 歳以上の患者における 5 年寛解維持率は 49.9%であり、40 歳以下群の 22.9%より有意に高かったことを述べ、40 歳以上で寛解維持率が高くなった明確な理由は不明としつつも 1) LRT の作用が腸粘膜への白血球動員の抑制であることから、高齢者では白血球動員が骨髄生成の減少と同時に減少している可能性、2) 体脂肪量の増加、体内水量の減少や腸内細菌の多様性の低下などの生理的变化が LRT への反応に影響を及ぼしている可能性を考察している。</p> <p>以上の成績は、LRT 療法が潰瘍性大腸炎患者の治療として有効で、特に 40 歳以上の患者では長期間の寛解維持について寛解維持率が高くなるという新しい知見を加えたものであり、意義あるものと考えられる。</p> <p>よって本論文は、博士 (医学) の学位論文として価値あるものと認めた。</p>		
最終試験の結果の 要旨	<p>最終試験において、各審査員より専門的な観点から論文内容及びこれに関連した事項について種々質問を行ったが、いずれについても適切な回答を得た。</p> <p>よって、審査員合議のうえ、大学院医学系研究科博士課程の最終試験に合格と決定した。</p>		
論文審査の結果	合格 不合格	最終試験の結果	合格 不合格
論文審査日	平成 31 年 2 月 7 日	最終試験日	平成 31 年 2 月 7 日
チェック <input checked="" type="checkbox"/>	論文審査において、研究指導計画書 (研究実施経過報告書) を活用した。		

学位論文審査及び最終試験の結果等報告書

平成31年2月18日

報告番号 甲	第 号	氏 名	祖川 倫太郎
審 査 員		主 査	末岡栄三郎
		副 査	相島慎一
		副 査	岡野 亮
論文題名	<p>題 名 Anxiety and depression associated with tyrosine kinase inhibitor discontinuation in patients with chronic myeloid leukemia</p> <p>雑誌名, 巻 (号のみの雑誌は号), 頁-頁, 発行西暦年 International Journal of Clinical Oncology 23(5), 974-979, 2018</p>		
論文審査結果の 要旨	<p>慢性骨髄性白血病の治療は、高額な ABL チロシンキナーゼ阻害薬(TKI)をどこまで継続するかが問題となっており治療を中止する臨床試験が多く行われているが、中止による精神的な変化を検討した報告はない。今回、著者らは医師より提案されて ABL-TKI を中止した患者に対してアンケート調査を行い、治療中止に伴う不安や鬱を解析した。</p> <p>1年以上の分子遺伝学的寛解を得た後に ABL-TKI を中止した 32 名を対象に、アンケートを行い、Hospital Anxiety and Depression Scale (HADS)を用いて調査を行った。主要評価項目は ABL-TKI 中止後の HADS スコアの推移とし、副次評価項目は臨床試験外における無治療寛解維持(TFR)率とした。中止から6ヶ月以降の HADS スコアは中止時に比較して有意に低く、逆に ABL-TKI を再開した患者において、再開時の HADS スコアは中止時と比較して有意に高かった。非臨床試験で中止した患者の TFR 率は、6ヶ月後が 62.5%、12・24ヶ月後が 55.6%であった。</p> <p>以上の結果は、ABL-TKI の治療中止のガイドラインに従えば、臨床試験外でも治療中止が許容されることを示唆された。ただし、治療再開時には不安感の増大が認められることから、精神的なケアも必要であることも示された。</p> <p>本研究における解析は、ABL-TKI の治療中止時および再開が必要な患者に対しての、精神的ケアの重要性を提言したものであり、意義あるものと考えられる。</p> <p>よって本論文は、博士(医学)の学位論文として価値あるものと認めた。</p>		
最終試験の結果の 要旨	<p>最終試験において、各審査員より専門的な観点から論文内容及びこれに関連した事項について種々質問を行ったが、いずれについても適切な回答を得た。</p> <p>よって、審査員合議のうえ、大学院医学系研究科博士課程の最終試験に合格と決定した。</p>		
論文審査の結果	<input checked="" type="radio"/> 合格 <input type="radio"/> 不合格	最終試験の結果	<input checked="" type="radio"/> 合格 <input type="radio"/> 不合格
論文審査日	平成31年2月18日	最終試験日	平成31年2月18日
チェック ■	論文審査において、研究指導計画書(研究実施経過報告書)を活用した。		

平成 31 年 2 月 28 日

報告番号 甲	第 号	氏 名	浦上 宗治
審 査 員	主 査	李 岡 輝 三 朗	
	副 査	池 田 義 孝	
	副 査	菅 金 尚 子	
論文題名	題 名 Clinical pharmacokinetic and pharmacodynamic analysis of daptomycin and the necessity of high-dose regimen in Japanese adult patients 雑誌名, 巻 (号のみの雑誌は号), 頁-頁, 発行西暦年 Journal of Infection and Chemotherapy, in press		
論文審査結果の 要旨	<p>著者らは、環状リポペプチド系の抗 MRSA 薬であるダプトマイシン(DPA)の 1 回適正投与量について、薬物動態/薬力学(PK-PD)解析を行い、日本人における DAP の高用量投与の必要性について検討した。モンテカルロシミュレーション(Monte Carlo simulation: MCS)と治療薬物モニタリング(therapeutic drug monitoring: TDM)による PK-PD 解析で有効性指標である peak/MIC\geq60 と AUC/MIC\geq666 および安全性指標である trough$<$24.3 μg/mL への到達率を算出した。</p> <p>MCS による有効性指標到達の cumulative fraction of response は 6 mg/kg q24h で 72-79%、10 mg/kg q24h で 99%であった。安全性指標到達の cumulative fraction of response は 10mg/kg q24h で 100%であった。原因菌の MIC を 1 μg/mL と仮定した場合、TDM において 6mg/kg q24h で peak/MIC\geq60 を達成したのは 57%、AUC/MIC\geq666 を達成したのは 64%であった。半減期は 12.1\pm2.34h で、クレアチニンクリアランス 30mL/min 未満で有意に延長していた。以上の結果より、6 mg/kg q24h は有効性指標の到達率が低く、高用量投与の必要性が示された。腎機能が低下するにつれて半減期が有意に延長しており、TDM による個別化投与設計の有用性が示された。すなわち、日本人において DAP は 1 回投与量が 8mg/kg 以上の高用量投与ならびに TDM が必要であることが示された。</p> <p>以上の成績は、日本人におけるダプトマイシン適正投与量について、新しい知見を加えたものであり意義あるものと考えられる。</p> <p>よって本論文は、博士 (医学) の学位論文として価値あるものと認めた。</p>		
最終試験の結果 の要旨	<p>最終試験において、各審査員より専門的な観点から論文内容及びこれに関連した事項について種々質問を行ったが、いずれについても適切な回答を得た。</p> <p>よって、審査員合議のうえ、大学院医学系研究科博士課程の最終試験に合格と決定した。</p>		
論文審査の結果	<input checked="" type="radio"/> 合格 <input type="radio"/> 不合格	最終試験の結果	<input checked="" type="radio"/> 合格 <input type="radio"/> 不合格
論文審査日	平成 31 年 2 月 28 日	最終試験日	平成 31 年 2 月 28 日
チェック <input checked="" type="checkbox"/>	論文審査において、研究指導計画書 (研究実施経過報告書) を活用した。		

平成 31 年 3 月 4 日

報告番号 甲	第 号	氏 名	石川 亜佐子
審 査 員	主 査	守 田 浩 樹	
	副 査	坂 口 嘉 郎	
	副 査	城 戸 瑞 紀	
論文題名	題 名 Essential roles of C-type lectin Mincle in induction of neuropathic pain in mice 雑誌名, 巻 (号のみの雑誌は号), 頁-頁, 発行西暦年 Scientific Reports, 9(1): 872, 2019		
論文審査結果の 要旨	<p>様々な糖鎖に結合する蛋白・レクチンのうちC型レクチンは、免疫細胞に発現しており、細胞接着のほか受容体としての機能が存在する。本研究課題では、C型レクチンの一つ macrophage-inducible C-type lectin (Mincle)が神経因性疼痛に関与しているか、マウス疼痛モデルを用いて解析した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・行動学的実験によって、末梢神経障害による痛覚閾値低下が Mincle ノックアウトマウスでは改善した。 ・real time PCR 法によって、野生型では末梢神経障害後数時間で Mincle mRNA が後根神経節で増加しており、フローサイトメトリーや in situ hybridization 法によって、好中球・マクロファージ・単球特異的に発現することを明らかにした。 ・障害を受けた末梢神経における Mincle mRNA 増加と好中球浸潤が、Toll-like 受容体の一つ、MyD88 を欠損したマウスでは、減弱していた。 <p>以上の結果から、好中球等に発現する Mincle 活性化が神経障害性疼痛に関与することを初めて明らかにした、意義ある研究であると考えられる。</p> <p>よって本論文は、博士 (医学) の学位論文として価値あるものと認めた。</p>		
最終試験の結果 の要旨	<p>最終試験において、各審査員より専門的な観点から論文内容及びこれに関連した事項について種々質問を行ったが、いずれについても適切な回答を得た。</p> <p>よって、審査員合議のうえ、大学院医学系研究科博士課程の最終試験に合格と決定した。</p>		
論文審査の結果	<input checked="" type="radio"/> 合格 <input type="radio"/> 不合格	最終試験の結果	<input checked="" type="radio"/> 合格 <input type="radio"/> 不合格
論文審査日	平成 31 年 3 月 4 日	最終試験日	平成 31 年 3 月 4 日
チェック <input checked="" type="checkbox"/>	論文審査において、研究指導計画書 (研究実施経過報告書) を活用した。		

学位論文審査及び最終試験の結果等報告書

平成31年2月6日

報告番号 甲	第 号	氏 名	高良 吉迪
審 査 員	主 査	安西 慶三	
	副 査	江口 有一郎	
	副 査	杉岡 隆	
論文題名	<p>題 名 Smoking and Drinking Did Not Increase the Failure of Therapeutic Helicobacter pylori Eradication by Vonoprazan, Clarithromycin, and Amoxicillin (飲酒や喫煙は vonoprazan を用いたピロリ除菌には影響を与えない)</p> <p>雑誌名, 巻 (号のみの雑誌は号), 頁-頁, 発行西暦年 Digestion, 2018 Sep 4 [Epub ahead of print]</p>		
論文審査結果の 要旨	<p>本論文は、カリウムイオン競合型アシッドプロッターである vonoprazan およびプロトンポンプ阻害薬を用いたピロリ菌の一次除菌において飲酒や喫煙を含めた生活習慣がどのような影響を及ぼすかについて解析した論文である。</p> <p>2012年から2016年にかけて行ったピロリ菌の一次除菌患者620名を対象とし、制酸剤として vonoprazan を使用した群とプロトンポンプ阻害薬を使用した群の2群に分け各群内、2群間で除菌率に生活習慣の影響があるか解析を行った。</p> <p>その結果、vonoprazan を使用した群はプロトンポンプ阻害薬の群に対して優位に除菌率が高かった。飲酒や喫煙といった生活習慣や肥満や糖尿病、高血圧といった生活習慣病は除菌率に影響を及ぼさなかった。Vonoprazan は既存のプロトンポンプ阻害薬と比較し制酸作用が強く、また安定的に作用する機序を有しているためと考えられる。通常プロトンポンプ阻害薬では内服時に飲酒・喫煙を控える指導を行った後に内服を行い、患者の服薬アドヒアランスが除菌効果に影響を及ぼすが Vonoprazan はその影響がなく、除菌において制酸剤は Vonoprazan を使用する方が有効性が高いことが判明した。</p> <p>以上の成績は、Vonoprazan の除菌効果が生活習慣に影響を受けないことを評価した初めての研究で新しい知見を加えたものであり、意義あるものと考えられる。</p> <p>よって本論文は、博士(医学)の学位論文として価値あるものと認めた。</p>		
最終試験の結果 の要旨	<p>最終試験において、各審査員より専門的な観点から論文内容及びこれに関連した事項について種々質問を行ったが、いずれについても適切な回答を得た。</p> <p>よって、審査員合議のうえ、大学院医学系研究科博士課程の最終試験に合格と決定した。</p>		
論文審査の結果	<input checked="" type="checkbox"/> 合格 <input type="checkbox"/> 不合格	最終試験の結果	<input checked="" type="checkbox"/> 合格 <input type="checkbox"/> 不合格
論文審査日	平成31年 2月6日	最終試験日	平成31年 2月 6日
チェック <input type="checkbox"/>	論文審査において、研究指導計画書(研究実施経過報告書)を活用した。		

平成 31 年 3 月 11 日

報告番号 甲	第 号	氏 名	神崎 匠世
審 査 員		主 査	杉岡 隆
		副 査	長尾由実子
		副 査	尾崎 光太
論文題名	題 名 Categorization and Characterization of Activities Designed to Help Health-care Professionals Involved in Hepatitis Care Increase Their Awareness of the Disease: The Classification of Hepatitis Medical Care Coordinators 雑誌名, 巻 (号のみの雑誌は号), 頁-頁, 発行西暦年 Internal Medicine, in press		
論文審査結果の 要旨	<p>本論文は、肝炎医療コーディネーターの活動内容を分析、類型化し、その特徴を明らかにしている。</p> <p>2011 年 10 月から 2 年間、肝炎コーディネーター 414 人を対象に自記式質問紙調査を行い、318 人から回答を得た。コーディネーターとしての活動内容を 13 項目に分類し、それぞれの実施の有無と、実施するにあたって必要な 8 つの項目に関して自身に不足があるかどうか、およびそれぞれの職種について尋ねた。</p> <p>活動状況を基に階層的クラスタ分析を行ったところ、4 つのグループに分かれた。各グループの特徴を職種、活動内容、不足事項に関して比較した結果、保健師が多く「情報提供や推奨を主に行うグループ」、管理栄養士や事務職が多く「主に多職種連携によって活動を遂行するグループ」、看護師が多く「主にリーダーとして全ての活動を遂行するグループ」、薬剤師が多く「服薬指導を主に行うグループ」に分類された。</p> <p>これらの結果から、肝炎コーディネーターとしての活動には、自身の職種の専門性を超えた知識や技術、あるいは環境整備が必要であることが明らかとなり、コーディネーター同士の連携、関係構築を図ることが重要であることが示された。これは今後の肝炎診療の質向上に寄与するものであり、意義あるものと考えられる。</p> <p>よって本論文は、博士 (医学) の学位論文として価値あるものと認めた。</p>		
最終試験の結果の 要旨	<p>最終試験において、各審査員より専門的な観点から論文内容及びこれに関連した事項について種々質問を行ったが、いずれについても適切な回答を得た。</p> <p>よって、審査員合議のうえ、大学院医学系研究科博士課程の最終試験に合格と決定した。</p>		
論文審査の結果	<input checked="" type="checkbox"/> 合格 不合格	最終試験の結果	<input checked="" type="checkbox"/> 合格 不合格
論文審査日	平成 31 年 3 月 11 日	最終試験日	平成 31 年 3 月 11 日
チェック <input type="checkbox"/>	論文審査において、研究指導計画書 (研究実施経過報告書) を活用した。		

学位論文審査及び最終試験の結果等報告書

平成 31 年 3 月 8 日

報告番号 甲	第 号	氏 名	古島 智恵
審 査 員	主 査	古賀 明美	
	副 査	河野 史	
	副 査	田 渕 康子	
論文題名	題 名 Influence of Maintenance of Face-Down Positioning on Physiological and Psychological Factors 雑誌名, 巻 (号のみの雑誌は号), 頁一頁, 発行西暦年 Vascular Failure, in press		
論文審査結果の 要旨	<p>本論文は、硝子体切除術後のうつ向き姿勢 (face-down positioning : FDP) 保持がヒトの生理的および心理的反応におよぼす影響について述べている。</p> <p>健康ボランティア 22 名 (21.9±2.6 歳) に対し、クロスオーバーデザインにて 2 条件 (FDP または椅子坐位<sitting chair positioning : SCP>) において、気分状態 (Profile of Mood States : POMS)、疼痛、血圧、心拍数、心拍変動、肩部筋硬度、皮膚温、および皮膚血流の測定を行った。POMS の疲労スコアの変化は SCP よりも FDP が有意に大きく、疼痛は、FDP、SCP の両方で時間経過に伴い増加したが、FDP でより顕著であり、有意な相互作用が見られた。肩部筋硬度は、FDP のみ増加した。腰部皮膚温は、SCP では有意に増加したが、FDP では有意に低下し、有意な交互作用が見られた。</p> <p>以上の成績は、FDP を維持する際には、痛みを軽減し、頸部から腰部への血流を促進するための予防的援助に新しい知見を加えたものであり、意義あるものと考えられる。</p> <p>よって本論文は、博士 (医学) の学位論文として価値あるものと認めた。</p>		
最終試験の結果 の要旨	<p>最終試験において、各審査員より専門的な観点から論文内容及びこれに関連した事項について種々質問を行ったが、いずれについても適切な回答を得た。</p> <p>よって、審査員合議のうえ、大学院医学系研究科博士課程の最終試験に合格と決定した。</p>		
論文審査の結果	<input checked="" type="radio"/> 合格 <input type="radio"/> 不合格	最終試験の結果	<input checked="" type="radio"/> 合格 <input type="radio"/> 不合格
論文審査日	平成 31 年 3 月 8 日	最終試験日	平成 31 年 3 月 8 日
チェック <input type="checkbox"/> <input checked="" type="checkbox"/>	論文審査において、研究指導計画書 (研究実施経過報告書) を活用した。		

学位論文審査及び最終試験の結果等報告書

平成 31 年 2 月 12 日

報告番号 甲	第 号	氏 名	大古場 良太
審 査 員	主 査	土屈川悦夫	
	副 査	馬渡正明	
	副 査	園畑素樹	
論文題名	題 名 Particular Protrusion Perception Arising from Plantar Sensory Input and Task Guidance Enhances Lower Limb Joint Dynamics during Gait 雑誌名, 巻 (号のみの雑誌は号), 頁-頁, 発行西暦年 Journal of physical Therapy Science, in press		
論文審査結果の 要旨	<p>直立姿勢の制御機構において足底部の感覚入力が必要な働きをしていることは、これまで基礎研究として報告がなされている。本研究では、足底部への刺激提示のために、突起物を足底部に装着し、且つその部位への荷重をかける条件と、それらの刺激のない統制条件との比較から、足底部への刺激の歩行訓練への効果を検証している。その成果を元に、リハビリテーションへの応用の可能性を検討するのが目的となっている。</p> <p>足底部への刺激 (Perceptual Stimulus Protrusion : PSP) として半球型で厚さ3mmの突起シールを貼付し、①踵後外側刺激条件(踵条件)と、②母趾球刺激条件(母趾球条件)とし、被験者に対して更に刺激部位への荷重負荷を行うように、口答で指示が行われた。</p> <p>測定指標として、下肢筋4部位 (大腿直筋(RF),内側広筋(VM),前脛骨筋(TA),腓腹筋内側頭(GM)) の筋電図、及び下肢の画像解析から、歩行時の初期接地 (IC)、足関節背屈角度、遊脚期のつま先高ピーク値の変化を算出した。</p> <p>筋活動計測の結果からは、踵条件の立脚期、遊脚期共に筋活動の有意な増大が、VM、TAの両部位でみられた。母趾球条件では、TAにおける筋活動の有意な増大がみられた。また、下肢のアライメントの解析からは、踵条件での初期接地時の足関節背屈角度、前遊脚期足関節底屈角度の増大、つま先高ピーク値の増加が見られた。母趾球条件では、前遊脚期足関節底屈角度とつま先高ピーク値に有意な増大が見られた。</p> <p>統計解析に不適切な手法が用いられていたため、それを指摘し、適切な手法での再解析の結果、有意差の検出部位に相違はないことを確認したため、その内容を出版社へ通知し対応を求めることを指示した。</p> <p>以上の成績は、足底部への刺激を用いての荷重練習や歩行訓練が、臨床における応用として期待されるものである。</p> <p>よって本論文は、博士 (医学) の学位論文として価値あるものと認めた。</p>		
最終試験の結果 の要旨	最終試験において、各審査員より専門的な観点から論文内容及びこれに関連した事項について種々質問を行ったが、いずれについても適切な回答を得た。 よって、審査員合議のうえ、大学院医学系研究科博士課程の最終試験に合格と決定した。		
論文審査の結果	合格 不合格	最終試験の結果	合格 不合格
論文審査日	平成 31 年 2 月 12 日	最終試験日	平成 31 年 2 月 12 日
チェック <input checked="" type="checkbox"/>	論文審査において、研究指導計画書 (研究実施経過報告書) を活用した。		